



ご存じですか? 「ストーリーテリング」の魅力

第2回読書活動ボランティア研修会「おはなしを語ろう」より

本が手元になくても、話し手と聞き手がいて、「おはなし」があれば、いつでも、どこでも、だれとでもできる。それが、ストーリーテリング。本を手にするこも、絵や文字を見るこもないので、これが読書に結びつくのか不安になる人もいるこでしょう。

読書の目的は人それぞれ。でも、子どもが本に求めるのは圧倒的に「おもしろさ」ではないでしょうか。その、おはなしを楽しむ力をつけてくれるのがこのストーリーテリングです。



例えば、「昔、森の中に、小さな家が1軒ありました。」という語り出しで、聞き手は、どんな森か、どんな家かを想像します。「その家には女が住んでいました。」と「その家には女の子が住んでいました。」とではイメージする登場人物も変わってくるのではないのでしょうか。

絵本だと、作者が準備してくれた絵の場面に入り込めばいいだけですが、語られるだけの「おはなし」の世界は自分で想像しなければなりません。だから、想像力、考える力、言葉の力などが鍛えられ、「おはなし」を楽しむことができるようになるのです。

研修会では、講師の田丸美穂さん（秋田県子ども読書支援センター員）による実演のあと、参加者それぞれが覚えてきた「おはなし」を披露しました。

不思議なことに、同じ「おはなし」が語られても、話す人が違うとイメージが変わります。前の人が話した悲しい「おはなし」が、後の人が話すと怖い「おはなし」になって聞こえるこもあるのです。話し手の解釈や雰囲気「おはなし」に命を吹き込むのです。

ストーリーテリングは話し手と聞き手の間に絵本等が介在しないため、ストレートに気持ちが通じ合います。語り終えると、参加者は初対面同士であったにもかかわらず、距離がぐっと近くなり、会話ははずんでいました。



童心に戻って「おはなし」楽しむ参加者たち

活動紹介

10月29日、文部科学省から表彰された「子どもの読書活動優秀実践校」。今回は、湯沢市立稲川中学校の取組を紹介します。

稲川中学校では、読解力育成の観点から、学校図書館運営の充実、読書指導の充実に積極的に取り組んでいます。学習活動として「読書新聞づくり」「読書集会」、委員会活動として「読書案内」の作成や「図書室のオススメ本」コーナーの設置、読書指導部による読書感想文指導や図書購入に関するアンケートの実施などを行っています。

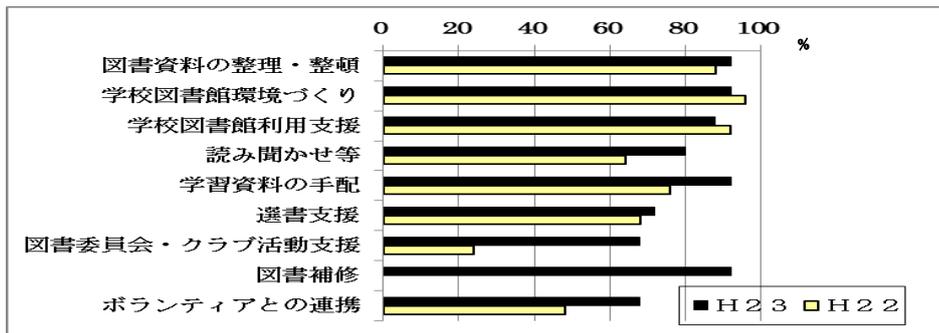
4年前から「読み聞かせフェスタ in 稲中」を開催して、全校生徒と保護者を対象に読み聞かせの集会を実施しています。近隣のボランティア団体から30名ほどを迎え、体育館や教室を会場として、学校と家庭、地域が一体となった行事となっています。

学校での読書活動が進んでいます！

「子ども読書夢プラン事業」の「実施に関する調査」を11月に行いました。「夢プラン」読書サポーター、市町村教育委員会、公立図書館（含公民館図書室）、訪問小・中学校から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

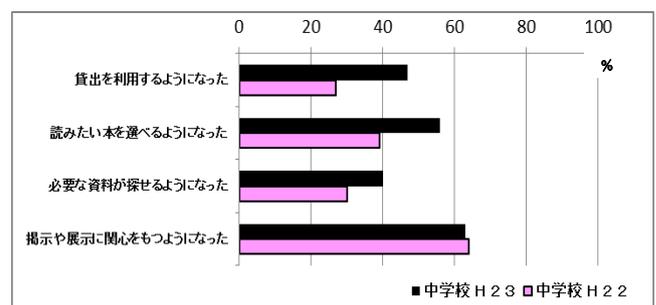
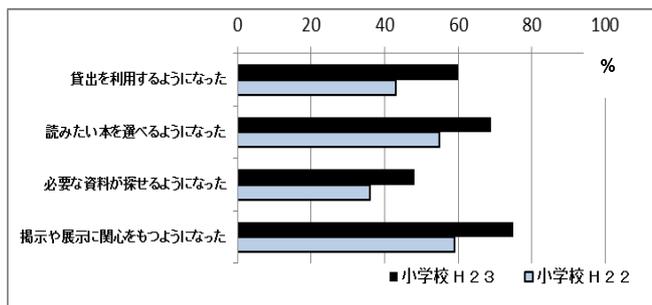
10月末現在で、今年度、読書サポーターが訪問した学校数は、小学校126校、中学校57校。この調査により、市町村やそれぞれの学校の実情に応じた図書館整備や読書活動の推進を行ってきたこと、子どもたちが学校図書館を利用したり進んで読書したりするようになったことを確かめることができました。また、先生方も授業で図書館を利用したり読み聞かせを取り入れたりして読書活動にいっそう力を入れています。さらに、地域のボランティアの方々も「読み聞かせ」「図書館整備」等で子どもたちの読書活動を支えてくださっています。

【読書サポーターの学校における活動内容】 回答：サポーター25名



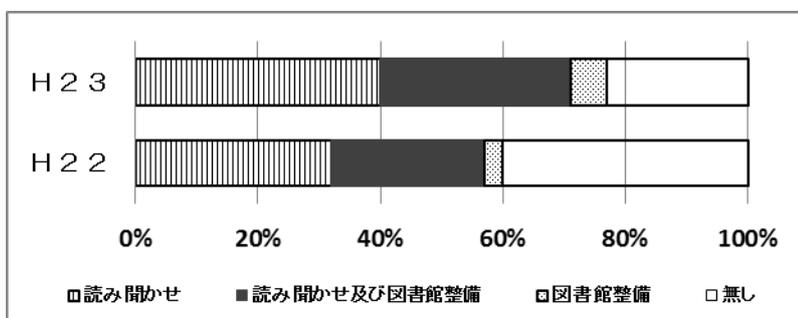
今年度は「読み聞かせ」「委員会活動」「ボランティアとの連携」が増えました。子どもたちに直接働きかける活動や、今後の読書活動を支援するボランティアとの情報交換・スキルの伝達をていねいに行いました。

【子どもたちの読書活動の変化】 回答：116小学校 48中学校



「読み聞かせ」で読みたい本、「調べ学習」で必要な本が、整備された図書館で見つけられるようになってきたのが分かります。貸出を利用する子どももぐんと増えました。

【小学校におけるボランティアとの連携】 回答：116小学校



この1年間でボランティアとの連携がずいぶん進みました。今後、学校支援地域本部事業を活用したりPTAに呼びかけて保護者ボランティア組織をつくったりしようとしている学校もあります。地域全体で学校の読書活動を支援する体制ができてきました。

読書活動ボランティア研修会で、昔話の定番「うらしま太郎」「かちかち山」は絵本によって設定やあらすじが異なることが話題になりました。助けたカメが乙姫様だったとか、ウサギにこらしめられたタヌキが改心したり殺されたりとか。子どもたちに伝えたいものがそれぞれあるからなのだという結論に。かつて読んだ本も、読み直してみると思わぬ発見があるかもしれません。

秋田県教育庁生涯学習課
生涯学習・読書推進班



URL

<http://www.pref.akita.lg.jp/syogaku/>